

音や音楽のよさや美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、
音や音楽、音楽文化に豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

研究副主題 「音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって主体的に音楽づくりに取り
組む児童の育成」

1 研究副主題設定の理由

音楽づくりの学習において、児童が思いや意図をもって主体的に音楽づくりに取り組み、音楽をつくる楽しさや喜びを感じられるよう、本副主題を設定した。その中心となる手立てとして「音楽づくりで用いる音楽を形づくっている要素の働きを感じ取る場面の工夫」が必要である。音楽を形づくっている要素の働きに気付いたり、そのよさや面白さを十分に感じ取ったりすることで、音楽づくりの発想を得たり、思いや意図をもって音楽づくりをしたり、見通しをもち主体的に取り組んだりすることができると考え、副主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取る場面の工夫をすれば、児童は思いや意図をもって音楽づくりに取り組むであろう。
- (2) 効果的にICTの活用をしたり、適切な音楽づくりの条件の設定をしたりすれば、児童は主体的に音楽づくりに取り組むであろう。

3 研究内容

仮説(1)(2)の手立てが有効かを検証するための授業実践

- ①音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取る場面の工夫
- ②思いや意図をもって音楽づくりをするための言葉かけの工夫
- ③適切な音楽づくりの条件(ルール)の設定
- ④効果的なICTの活用

4 結論

音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって音楽づくりに取り組む児童を育成するには、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取り、音楽づくりのポイントを児童自らが発見することが重要である。思いをもつためには、日常生活のどんな場面の音楽をつくるのかなどの設定があるとよい。思いや意図をもち音楽づくりに取り組むためには、表したい音楽にするためのポイントをどのように生かすかを考えるようにすることが大切だと感じた。音楽づくりの時の言葉かけは、児童の思いや意図と音楽をつなぐようにするとよい。主体的に音楽づくりに取り組むためには、ICTを使った音楽づくりや、ルールやポイント、学習の流れを明確に示すことが有効であることがわかった。

1 研究主題

音や音楽のよさや美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、
音や音楽、音楽文化に豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

2 研究副主題

「音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって主体的に音楽づくりに取り組む児童の育成」

3 研究副主題設定の理由

(1) 学習指導要領との関わり

小学校学習指導要領 第2章 第6節 音楽 第1 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

音楽づくりの学習において、児童が思いや意図をもって主体的に音楽づくりに取り組み、音楽をつくる楽しさや喜びを感じられるよう、本副主題を設定した。その中心となる手立てとして「音楽づくりで用いる音楽を形づくっている要素の働きを感じ取る場面の工夫」が必要である。音楽を形づくっている要素の働きに気付いたり、そのよさや面白さを十分に感じ取ったりすることで、音楽づくりの発想を得たり、思いや意図をもって音楽づくりをしたり、見通しをもち主体的に取り組んだりすることができると考え、副主題を設定した。

(2) 児童の実態から

本校は各学年2学級ずつ、全校で253名の学校である。児童は明るく活動的である。一人一人は素直で、与えられた課題に対してはしっかり取り組んでいる。本校は、2021、2022年度、印旛地区教育委員会連絡協議会・印西市教育委員会の指定を受け、教科等横断的な視点での情報活用能力の育成をめざす研究を行ってきており、児童はICTの活用により効果的に自らの考えを発信することができるようになってきた。児童からは、「文章を書くことに対するハードルが下がった。」「自分の考えを整理・表現しやすくなった。」「動画・音声等、いろいろな表現方法ができるようになった。」等の意見が出ている。

本研究は2022年度4年生、2023年度5年生の音楽づくりの活動を対象に行ってきた。始めるにあたり、2022年9月にアンケートを行ったところ、ほとんどの児童が音楽づくりの活動は好き、またはどちらかという好きと答えている。2022年1学期に行った音楽づくり

の活動では、楽しそうに友達と音楽をつくる姿が見られた。さらに、思いや意図を明確にもち、主体的に音楽づくりの活動に取り組めるようになることを期待し、本研究を進めることとした。

4 研究仮説

【仮説1】 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取る場面の工夫をすれば、児童は思いや意図をもって音楽づくりに取り組むであろう。

【仮説2】 効果的にICTの活用をしたり、適切な音楽づくりの条件の設定をしたりすれば、児童は主体的に音楽づくりに取り組むであろう。

5 研究の実際

実践Ⅰ 2022年12月 第4学年

題材名 音階をもとにして音楽をつくろう

(都節音階、民謡音階、琉球音階の中から一つ好きな音階を選び、個人で4小節の旋律をつくる。)

実践Ⅱ 2023年3月 第4学年

題材名 役わりをもとに音楽をつくろう

(お話役(旋律)2人、支え役(低音)1人、飾り役(打楽器)1人の4人組で、12小節の音楽をつくる。)

実践Ⅲ 2023年6月 第5学年

題材名 和音に合わせて旋律をつくろう

(旋律と和音を重ねて8小節の音楽を、3人組でつくる。)

※実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ全てパソコンのアプリケーション「ソングメーカー」を使用。

(1) 仮説1について(手立て①②)

手立て① 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取る場面の工夫

〈実践1〉(思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素…音階、旋律)

	○教師の働きかけ	・児童の様子
単 元 前	○沖縄の音楽を昼の放送で聴くことで、親しみをもてるようにした。 ○一つ前の単元「音楽今昔」で、「エイサー」を取り上げ、沖縄の音楽に触れるようにした。	・昼の放送で沖縄バージョンのジブリ曲集を聞いても、「沖縄」の感じがすると気付いたという児童は少なく、普段からの親しみはあまりないようだった。 ・三線や太鼓の音色、独特な声の出し方などに気付き、沖縄の音楽の特徴に気付くことができた。

第一時	○「谷茶前」を聴いたり歌ったりし、音楽の雰囲気や特徴に気づき、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取れるようにした。児童の発言を板書にまとめ、気付いたことや感じ取ったことを全体で共有した。また、この曲に使われている音階を知り、音階のもつ雰囲気を感じ取れるようにした。既習の「さくら さくら」「ソーラン節」に使われている音階についても確認し、それぞれの音階の感じの違いについて、児童の発言からまとめた。 ○それぞれの音階に使われている音のみの鍵盤にしたミニグロッケンで、一人2小節の旋律をつくらせリレーする活動を行った。それぞれの音階の雰囲気を感じ取り、次時の音楽づくりではどの音階でどのような音楽をつくりたいか思いや意図をもてるようにした。	・児童の発言からまとめた音階の雰囲気 〈沖縄の音階〉 沖縄、外国、日本じゃないみたい、明るい 〈「さくら さくら」の音階〉 昔っばい、和風、しぶい、古い、 暗い（「ミファラシドミ」の音の中で、 「ファ」の音に注目し、「ソーラン節」の音階は「ソ」が使われているのに対し、 「ファ」と低いので、暗い感じがするという発言があった。） 〈「ソーラン節」の音階〉 昔（ちょっと現代）、和風、しぶい、お囃子、明るい（「ソ」が使われているから） ・ミニグロッケンで音楽づくりをしたふり返りでは、「音階によってこんなにも曲が変わるんだと思った。」という感想があり、音階による雰囲気の違いを感じ取ることができていたことがわかった。また、音階の音をとばさずに順番通りに音を鳴らした方が、雰囲気が出ることや、音があまり急にとばない方がよいことなどに気付く児童もいた。これらのふり返りは、音楽づくりのポイントにつながるため、第二時の導入の場面で紹介をし、音楽づくりの思いや意図につながるようにした。
第二時	○教師のつくった2つの旋律（音が2つしか使われていない旋律、音がとぶことが多くて、まとまりがない旋律）は、音階や旋律の動きを生かして音階の雰囲気が表れている旋律になっているか考える場面を設け、音階や旋律の動きをどのように工夫したら良いか、見通しをもたせた。	・教師のつくった2つの旋律について気付いたことを交流する中で、音の選び方と音の動き方を工夫すると、○○っばい感じの音楽ができるということを2つのポイントとして理解することができ、思いや意図をもって音楽をつくることにつながった。

〈考察〉

- ・3つの音階の雰囲気を感じ取り、その中から好きな音階を選ぶことで、自分のつくりたい音楽についての思いをもつことができていた。（下線部）

- ・自分のつくりたい音楽のイメージに合うように、音階のどの音を使うとよいか、また、どのような音の動き方をしたらよいかを何度も試しながら音楽をつくる姿が見られた。

〈実践Ⅱ〉（思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素…音楽の縦と横との関係）

	○教師の働きかけ	・児童の様子
単 元 前	○「ラ クンパルシータ」の合奏では、パートごとにどのような役割をしているのかを考えさせて、役割を生かして演奏するようにした。	・「ラ クンパルシータ」のパートごとの役割について、以下のような児童の発言があった。 鍵盤ハーモニカ…主役、主旋律、呼びかけとこたえ リコーダー…美しさをプラス 木琴…主役、伴奏、ハーモニー 低音…全体を支える、拍の流れ 打楽器…リズム担当、拍の流れ
第 一 時	○既習曲「ラ クンパルシータ」のパートごとの役割や音楽の進み方などについて確認をした。 ○既習曲「小さな世界」「もみじ」などの旋律やリズムの重なり方について確認をした。	・音楽の進み方 「ラ クンパルシータ」…アイウ 「ノルウェー舞曲」…アイア になっていることを確認した。 ・旋律やリズムの重なり方 「小さな世界」…最後は、アとイの旋律を重ねている。 「もみじ」…途中から、二部合唱
第 二 時	○支え役、飾り役の関係を縦に見ると、どのようなになっているのかを確認した。	・既習曲の音楽の縦の関係で確認したこと。 交互…「せいじゃの行進」の打楽器 時々重なる…「ラ クンパルシータ」の打楽器 縦にそろろう…「ラ クンパルシータ」は、最後の部分がほとんどの楽器が「レドシラ#ソラ」と、縦にそろうことに気付き、音楽づくりでも「ぴったり重なる」部分を取り入れる姿があった。

〈考察〉

- ・既習曲の音楽の縦と横との関係について調べたことを生かし、思いや意図をもって音楽をつくる姿が見られた。
- ・どのような音楽にしたいかという「思い」は薄かった。そこで、実践Ⅲでは、どのような音楽にしたいかという思いをしっかりともてるような手立てとして、パフォーマンス課題を設定することにした。業間休み終了5分前のメロディーをつくるという日常生活に直結した課題によって、どのような音楽をつくりたいかという思いをもつことができた。
- ・それぞれのつくった音楽をただ重ねただけというグループがあり、音楽の縦と横との関係を意識できていなかった。そこで、実践Ⅲでは、音楽をつくるときのポイント2つを児童と共に見

出し、音楽をグループでつなげた時には、ポイントに沿ってつくれているのかを確認するようにした。

〈実践Ⅲ〉〈思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素…音楽の縦と横の関係〉

	○教師の働きかけ	・児童の様子
第一時	○教師のつくった和音と旋律の響きが合っていない音楽を聴き、「旋律と和音の響きが合うためには、どのようにしたらよいか」という課題を見出させるようにした。課題を解決するために既習の曲を聴いたり、旋律と和音がソングメーカーで入力されている楽譜を見て、旋律にはどのような音を使っているのかを調べたりした。 ○「旋律と和音の響きの関係」の働きが生み出す面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えるために、ミニグロッケンを使って即興的な音楽づくりを行った。	・旋律と和音の響きが合うためには和音の構成音を使うこと、和音の構成音に挟まれた音や、構成音の隣の音ならば、使っても違和感がないという意見が出た。 〈ふり返りの記述から〉 「和音と旋律を濁らせないためには、和音の音を旋律に使うことできれいになる。」「1つくらいなら違う音が混ざっても大丈夫。」「本当に、1つだけならいいのだろうか。」「なぜ、1つ違う音が入っているのか。」「一つくらい変な音があってもアレンジになる。」「音楽を縦に見ることは、大事。」 ・和音の構成音のみにしたミニグロッケンを4台使用し、一人1小節ずつ旋律をつくってリレーすることで、和音の響きに合った旋律をつくることができた。児童からは「自分の音がよくつくれたので、今度はもっとおもしろいものをつくりたい。」という声があった。
第二時	○教師のつくった旋律に繰り返しの部分がない音楽を聴き、「まとまりのある旋律にするには、どのようにしたらよいか」という課題を見出させるようにした。	・教師のつくった見本の音楽から、「まとまりのある旋律にするためには、どのようにしたらよいか」という課題が児童から出ることがなかったので、既習曲「茶色の小びん」の旋律と教師のつくった旋律とを比較することで、「一部の旋律を繰り返すことで、まとまりがでる」ということを確認した。他にも児童からは、「こきょうの人々」や「プパポ」も一部の旋律を繰り返しているという声があった。

〈考察〉

- ・音楽づくりのポイントを、問題解決学習を通して見出すことができた。教師からポイントを示すのではなく、自分たちで考えて見つけたポイントなので、音楽づくりの思いや意図につながった。

- ・「まとまりのある旋律」については、児童から課題を見出すことが難しかった。しかし、既習曲と比べることで、旋律を一部くり返すというポイントに結びつけることができた。実践Ⅱの後にいった「星笛」のリコーダー合奏では、始めの部分の旋律が2段目にも表れ、繰り返していることを聴き取ることとその働きを感じ取ることができていた。
- ・業間休み終了5分前の放送のメロディーをつくるというパフォーマンス課題を設定したことにより、どのような音楽をつくりたいかという思いを、全員もつことができた。また、第一時、第二時に見つけたポイントをふまえて、どのような音楽をつくりたいかという思いや意図をもったり、2つのポイント以外にも、ミニグロックで即興的に音楽づくりをしたときに旋律と和音の響きが合っている感じの美しさや、既習である音の動き方などから思いや意図をもったりすることができた。

手立て② 思いや意図をもって音楽づくりをするための言葉かけの工夫

どのような音楽にしたいかという自分の思いが浮かばない児童には、前時までに学習してきたことを想起させたり、いくつか例を示したりすることで、どのような感じの音楽にしたいか自分の思いをもつことができていた。その後、旋律についてなかなか思いつかない児童には、前時までに学習した音楽づくりのポイントを確認し、それを意識して音楽をつくるよう助言したり、いくつか例を示したりすることで、見通しをもって取り組むことができた。

音楽づくりをしている過程の児童やつくり終わった児童には、主にどのように考えて音楽をつくったのかを尋ねた。思いや意図と音楽のつながりを児童が意識できるように「○○な感じの音楽にするために、どのように音楽をつくったのか」と具体的に尋ねた。児童から言葉を聞き取ったら、復唱したり、「このようなことね？」と思いを確認しながら整理して伝えたりし、そのことをワークシートに記入するように助言した。

できあがった音楽のどの部分に思いや意図が表れているのかを尋ね、その部分を賞賛していくことを積み重ねることが、音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって音楽づくりに取り組むために有効だと感じた。

	教師の働きかけ	実際の児童の様子・それに対する言葉かけ
実践Ⅰ	・音の選び方や音の動き方に関して、どのように考えて音楽をつくったのかを問いかける。 ・特に音階の雰囲気を生かしている部分や、お気に入りの部分はどこかを尋ねる。 ・なぜ、この音階を選んだのかを問いかける、音階の気に入った部分を生かして音を選ぶよう助言する。 ・ただ何となくつくったという児童には、旋律づくりのポイントをふり返るよう助言し、音階の雰囲気を生かせるようにしていく。	・イヤホンをして、何度も自分のつくった音楽を再生しながら音楽をつくる姿が見られた。最後まで完成させてから聴くだけでなく、少しつくっては再生して確かめ、じっくりと考えながら音を選ぶ様子が見られた。つくった音楽は、イメージ通りになったか尋ねると、「ん～、和風っぽくないな。」とつぶやく姿が見られ、イメージにあった音楽をつくらうとしていることがわかった。
実践Ⅱ	・音楽の進め方は、どのように考えてつくったのかを尋ねる。 ・支え役と飾り役で音楽の縦と横との関係を	・4人のつくったものをただ重ねただけというグループには、音楽の進め方や音楽の縦と横との関係についてもう一

	どのようにするのか考えるよう助言する。 ・ 支え役と飾り役はどのように考えてこのようにしたのかを尋ね、思いや意図をアウトプットしたりグループでつくった音楽についてふり返りをしたりできるようにする。	度説明をし、どのようにしたいか話し合うよう助言した。
実践Ⅲ	・ どんな感じの音楽にしたいのかを尋ね、さらに、どの部分にそれが表れているのかを尋ねる。 ・ それぞれがつくった旋律のつながりは、自然になっているか尋ねる。 ・ 和音の音のみを旋律に使っていて、和音にない音を使っていないグループには、なぜそのようにしたのか思いや意図を尋ねる。 ・ つくった音楽に違和感があるグループには、なぜしっくりこないのかやどの部分に違和感があるのかを尋ねる。 ・ 微調整を行った児童には、どうして行ったのか、またどのようにしたのかを尋ねる。	・ 和音にない音を入れてみたけれども違和感があるというグループに、どの部分が気になるのか尋ねたところ、最後の小節のレの音に違和感があるとのことだった。レの前のソをミにすることで、「ソレド」から「ミレド」となり、和音の構成音にない「レ」を構成音の「ミ」と「ド」ではさむようになることを提案した。「ミレド」にした音楽を再生して確かめたところ、満足そうな様子で児童からは、「これがいい。」という声が聞かれた。

(2) 仮説2について(手立て③④)

手立て③ 適切な音楽づくりの条件(ルール)の設定

ルールを明確に設定することで、本題材で取り扱う思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素に焦点を絞って、音楽をつくることができた。ルールが明確でない場合、本題材のねらいから外れてしまうおそれがある。また、児童が「リズムを変えてもいいですか。」など、ルールの変更をしたがる場合もあるが、どこまで許容するのかをあらかじめ教師自身が考えておく必要がある。ルールに沿っていない音楽では、本題材のねらいに十分にせまることができないことが考えられる。本題材のねらいにせまるために、ルールを明確にし、さらに児童にとってわかりやすいものにすることで、見通しをもって音楽づくりをすることができた。

〈実践Ⅰ〉

① 4小節つくる(4分の4びょうし)

② リズムは、



③ 選んだ音階の音を使う。

④ ○○っぽい旋律をつくるには、どうしたらよいか考えながらつくる。

⑤ 速度 ♩ = 100

⑥ 音色 ストリングス

⑦ 終わりの音 ○の音

〈実践Ⅱ〉

① 役わり お話役①、お話役②、ささえ役、かざり役

② お話役 マリンバの音色。ミファソラシドの音。
まねっこ、よびかけっこ。

③ かざり役 Kitの音。(大だいこ、小だいこの音)

④ ささえ役 マリンバの音色。ドのみ。はじめ・中・終わりは、それぞれ同じリズム。

⑤ 速度 ♩ = 120

⑥ はじめ・中・終わり それぞれ4小節ずつ

⑦ お話役のリズム ●●●○

〈実践Ⅲ〉

① 8小節（4分の4拍子）

② リズム  × 4

③ 和音 I IV V I × 2

④ 音色 ピアノ

⑤ 速度 ♩ = 100

⑥ 最後の音は、ド（高いドでもよい）

⑦ 使う音 ドレミファソラシド

⑧ 和音にふくまれない音、1つだけ使ってもよい

3人組で、それぞれABCを担当する。



手立て④ 効果的なICTの活用

全ての実践においてワークシートは、パソコンでカードとして用意し、音楽をつくる前の自分の思いや意図、音楽づくり後には、どのように音楽をつくったのかや、ふり返りを入力するようにした。パソコンに入力してアウトプットすることで、ただ何となく音楽をつくるのではなく、自分の思いや意図をはっきりさせて音楽づくりに取り組むことができた。また、カードに書かれていることに教師が目を通すことで、音楽づくりをしている時の支援や完成したときの言葉かけに生かすことができた。また、授業の最後にふり返りを書くことで、次時への意欲や個々のよりよいものをつくろうとする向上心につなげることができた。グループで音楽づくりをする際は、一人一人の思いや意図が見えにくくなるため、グループではどのような意見を提案したのかもカードに入力するようにした。

ワークシートのカードは、文字の分量や児童が入力する項目が多めだが、本校の児童は普段からどの教科でもICTを活用しているので、パソコンの操作やタイピングに非常に慣れている実態があり、無理なく入力することができていた。（ワークシートは、資料編p3参照）

全ての実践において、音楽づくりはパソコンのアプリケーション「ミュージックラボ」に入っている「ソングメーカー」を使って行った。ソングメーカーは、音が7色で表されていて、わかりやすいのが特徴である。再生すると、音のバーが動きながら画面が横に進んでいく。音階の下の部分には、打楽器によるリズムも入力できる。音色、速度なども設定することができる。

	「ソングメーカー」の有効であった点
全実践共通	・ つくった音楽を再生し、何度も聴いて確かめることができる。 ・ 楽器の演奏技能に関わらず、音楽をつくることができる。 ・ どの音を使っているのかや、音の高低、音の動き方などが可視化される。 ・ 音楽づくりのルールに沿った設定をあらかじめ教師が行い、そのデータを児童に送信することで、全員が同じ設定で音楽をつくることができる。（「ソングメーカーのもと」として、ワークシートのカードに貼り付けて児童に送った。） ・ ソングメーカーでつくった教師の作品例や、既習曲「茶色の小びん」をソングメーカーでつくったものなども児童に送り、参考資料として児童が活用することができた。

	・つくった音楽をロイロノートの提出箱に提出し、回答を共有をすることで、友だちのつくった音楽を鑑賞したり、テレビ画面で再生して発表会をしたりした。
実践 I.	・3種類の音階のソングメーカーの画像を掲示したり、児童にパソコンで送ったりすることで、音楽づくりで使う音を容易に確認することができる。（音の選び方） ・音があまりとばないようにすることで、音階の雰囲気を生かした旋律をつくるというポイントに沿っているか、確認しやすい。
実践 II	・音に色がついているので、「まねっこの仕組み」の時に、同じ音型になっているか確認しやすい。 ・お話役、支え役、飾り役がどのように重なっているか（音楽の縦の関係）が、わかりやすい。 ・4人一組で12小節を楽器で演奏すると拍の流れを合わせるのが難しいが、ソングメーカーを使うと、4つのパートが正確に重なって演奏されるため、つくった音楽を容易に確かめることができる。 ・ソングメーカーに説明を書き込んだものを児童に送ったり、テレビ画面に表示したりして、音楽づくりのルールや方法について説明をした。
実践 III	・和音に使われている音と同じ色で旋律をつくるとよいので、わかりやすい。 ・和音に使われていない音についても、色で判別できて、わかりやすい。 ・再生することで、旋律と和音の響きが合っているかを確かめることができる。 ・3人で旋律をつなげるので、前の人がつくった旋律とのつながりや音の動き方を目で見えて確かめることができる。また、再生して自然なつながりになっているかを確認することもできる。

6 総合考察

- 思いをもたせるためには、実践Ⅲで取り入れたようなパフォーマンス課題が有効であった。第1時では、現在の業間休み終了5分前の音楽を確認したり、市の防災無線の正午や夕方音楽はどのような音楽なのか想起するようにしたりし、どのような音楽をつくるとよいかイメージを膨らませられるようにしたことも有効であった。
- 見通しをもち、主体的に音楽づくりに取り組めるよう、実践Ⅲでは学習の流れを模造紙に書いて掲示した。8つのステップで、行うことを明確に示したことで、児童はそれを見ながらグループごとに自分たちのペースで学習を進めることができた。個人やグループで音楽をつくる時間は約25分間あったが、掲示物を確認することでスムーズに学習に取り組んでいた。
- 実践Ⅲでは、グループで音楽づくりをする際、「次に、つなげるようにしないと。」「高い音にしておいてから低い音で終わらせるようにしたよ。」「落ち着いた音にするには、終わりを低い音にしないと。」「楽しい感じの曲にしたい。でも激しくなりすぎないようにしたい。」「音が濁らないようにしたい。」「いいと思う。」「ちょっとなんか・・・。」「和音にない

音も使おうかな。」「なんかなあ・・・。」「ちょっと違和感ある。」などのつぶやきや発言があり、思いや意図をもって音楽づくりをしている姿が見られた。

○実践Ⅲの单元全体のふり返りでは、「この学習を通して、和音をもとに旋律をつくっていることがわかった。」「和音と旋律の関係について少しわかった。和音にない音（間に挟まれている）を使ってもあまり変だと思わないのはなぜか。」など、旋律と和音の響きの関係について深く考えることができていたこともわかった。

○実践Ⅲでは、実際に業間休み終了5分前の放送で、5年生全グループの音楽を日替わりで流した。4年生からは、「落ち着く感じの音楽で、次の授業に向けて勇気が出た。授業が始まるのが実感できた。切り替えができる。毎日替わるから、もっと聴いてみたくなる。やさしい感じなので、疲れて帰ってくるけど、いい気持ちになれる。前は簡単なチャイムだったけど、今は音楽になっている。自分たちもつくってみたい。給食や昼休みも流してほしい。聴いていて嬉しいので、自分たちも音楽をつくって返したい。」という声があり、その感想を聞いた5年生は、とても満足そうな表情だった。校庭で児童と一緒に遊んでいた職員からは、「和音が入っていてリズムもよく、教室に帰ろうという気持ちになった。」という声があった。また、「いつものメロディーと違うメロディーが鳴ることで、児童もよく聞いていた。今後、定期的にメロディーが変わるのもよいかもしれない。」という声もあった。

7 成果と課題

〈仮説1について〉

○今回の音楽づくりでは何に気を付けてつくるかというポイントを理解してから音楽をつくることで、音楽的な見方・考え方を働かせて、思いや意図をもって音楽をつくることができていた。【手立て①】

○思いが音楽のどの部分に表れているのかを尋ねたり、どのように考えて音楽をつくったのかを尋ねたりする言葉かけで、児童の思いや意図と音楽をつなぐことができた。【手立て②】

〈仮説2について〉

○適切なルールや音楽づくりのポイント、学習の流れ、チェックリストなどを示すことで、見通しをもち、主体的に音楽づくりに取り組むことができていた。また、授業の終わりにはふり返りの時間を設け、ワークシートに記入することで、学んだことをふり返り、次に生かしていこうとする態度を育てることにつながった。【手立て③】

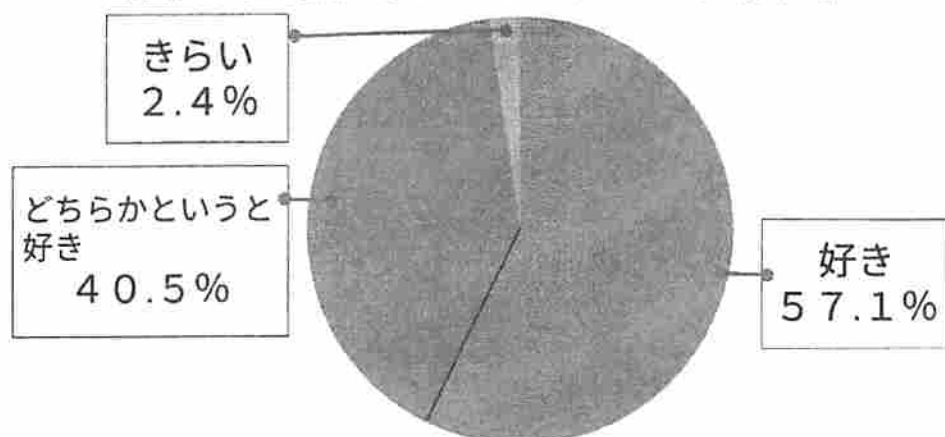
○音楽づくりにICTを取り入れることで、音楽が可視化されたり何度も再生したりすることができ、思いや意図に合った音楽をつくることができた。【手立て④】

●実践Ⅱでは、どのような音楽にしたいかという思いをもたせるための支援が不十分だったため、具体的な思いをもたせることがあまりできなかった。実践Ⅲのように、パフォーマンス課題があると、児童は思いをもちやすいのではないかと考える。実際に校内放送で流すような場面の設定が難しい場合でも、「お風呂のお湯が沸きました」のお知らせメロディーをつくるなどの、児童の普段の生活に関連した状況設定をすることで、どんな感じの音楽にしたいという思いをもち易く、思いや意図をもって音楽づくりに取り組めるのではないかと考えた。

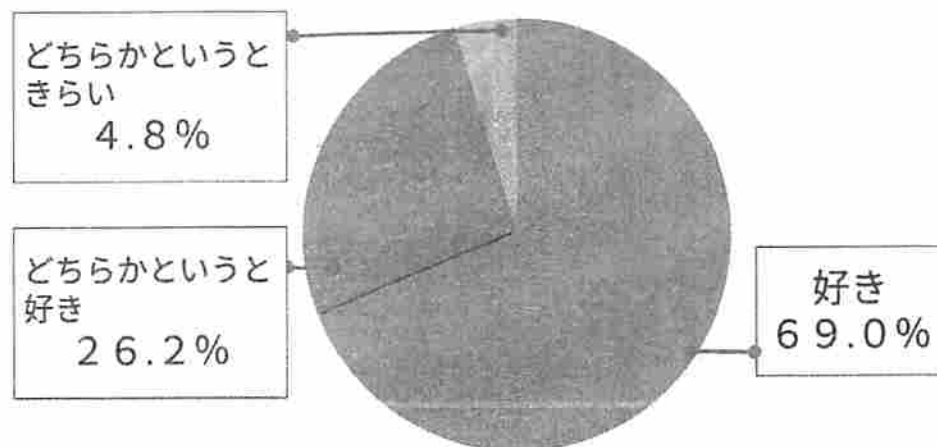
資料編

資料1 アンケート結果

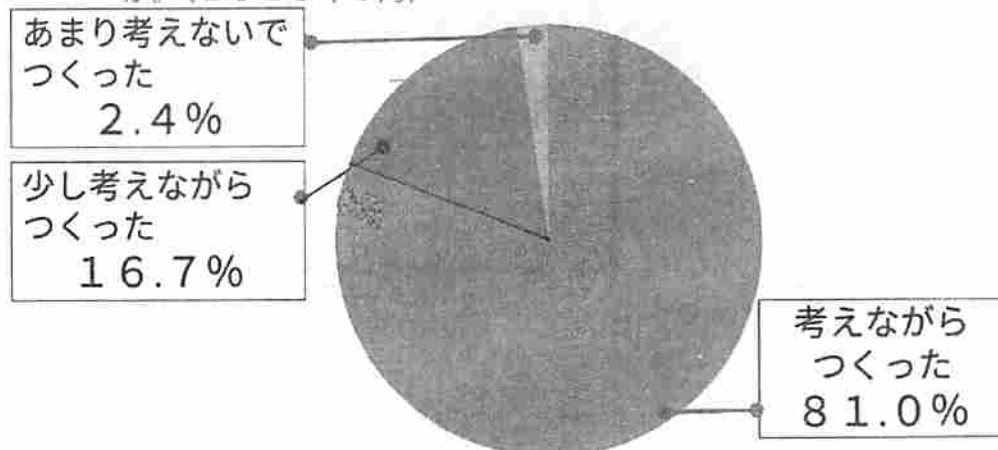
音楽づくりの活動は好きですか？（2022年9月下旬）



音楽づくりの活動は好きですか（2023年6月）



音楽をつくる時、どのようにするか考えながらつくりましたか。（2023年6月）



資料2 ワークシート
〈実践I〉 【第1時】

お気に入りの音階を選んでせんりつをつくり、音階のふんいきを感じ取ろう。

選んだ音階 「沖繩」の音階

選んだ理由 ・日本ではなく他の国の音楽のような感じがして、かっこよかったからです。(次回も沖繩の音階をやりたいです。)

ふり返り ・コツはソとシが沖繩っぽかったからそれを入れるといいます。

まとめ 選ぶ音を考えて作る。選ぶ音を考えて作るのとても楽しかった。

【第2時】

〇〇っぽいせんりつをつくるには、どのようにふうをするとよいのだろうか。

使う音階 「ソーラン節」の音階 このソングメーカーのもとをつかって、せんりつをつくろう。

どんなイメージの音楽にしますか？

色々な音で作って、力強く、海を感じる感じがしたい。(選んだ音階、音が耳から出てきた感じがする感じがしたい)

せんりつをつくる時に考えたこと
「〇〇っぽいせんりつにするために、
どんなふうにせんりつをつくったのかな？」

つくったソングメーカーのウェブカードをはりつけよう。

力強く、海を感じる感じがするにすると、音の移動を多くしたり、沖繩の音階にも入っている、ソとシを少なくして、沖繩っぽく、力強く、海を感じる感じがするにしよう。

ふり返り (くふうポイント)

力強く、海を感じる感じがするにすると、音の移動を多くしたり、沖繩の音階にも入っている、ソとシを少なくして、沖繩っぽく、力強く、海を感じる感じがするにしよう。

【第3時】

つくったせんりつの発表会をしよう。

友達のせんりつをきいての感想

みんな、違う音で上がった下がったりがなんの音階を使ったかでみんなの音が全く違いました。そして、色々な人の音を選んだ理由などを聞いて色々な理由が聞けてよかったです。友達と違った音を作ってみたいです。

「音階を使って音楽をつくろう」の学習をふり返って

楽器で初めて音を作ってみたら、楽器もどの音を鳴らしているのかがわかりやすかったです。そして、ソングメーカーではどんな音を鳴らしたいかがわかりやすかったです。

〈実践II〉

音楽の進め方と、音楽のたてと横の関係を考えて、音楽をつくろう。

役割	お話役① お話役②	ささえ役 かざり役	このソングメーカーのもとをつかって、せんりつをつくろう。
音楽の進め方	始め お話役①→② よびかけっこ	中 お話役②→① まねっこ	終わり お話役①→② よびかけっこ
音楽の進め方	ささえ役 ○●●○	ささえ役 ●○●○	ささえ役 ●●●●
音楽の進め方	かざり役 ●○●○	かざり役 ○●●●	かざり役 ●●●●
ふり返り	自分、どのようなことを考えて音楽をつくったか。 自分、どんな意見を出したか。 その他、考えたこと、学んだこと、今度やってみたいこと。		
音楽の進め方	アイウ 始めは楽しい感じにするように、よびかけっこにしました。中は不思議な感じにするために、まねっこにしました。最後は、また楽しくするようによびかけっこにしました。		
まとめ	グループの人たちとどんなふうするか話し合って決めました。ささえ役とかざり役は交互にやったり、同時にやったりするかも決めました。		

〈実践Ⅲ〉

【個人のカード】
「ソングメーカーのもと」
を貼り付けてあるので、全員が同じ設定（ルール）で音楽をつくることができる。

旋律と和音の響きが合っていて、旋律の流れにまとまりのある音楽をつくろう。

自分の考えを書くカード！

どんな音楽にしますか。
どんな感じの音楽にしますか。

落ち着いた感じに作りたい。だから音が低めでとんとん下がる感じにしたい。音があまり変わらないように。最後は落ち着いてもらうために低い音で終わる。

自分のせりりつを入れたソングメーカー。

そのために、どのように作りたいたですか。また、どのようなことに気をつけたいですか。

和音に合うように音を選んでおしゃれな感じに和音と違う音を使う。和音の音にない音を使わないように気をつける。

自分の担当するせりりつが完成したら、書きましょう。

自分の担当した部分は、どのように音楽をつくりましたか。考えたことを書きましょう。そして、友達に伝えましょう。

最後は和音にない音を使った。いろんな音を試してみただけと扱われている音じゃないと変だと思った。最後は下がるようにした。

ふり返り（旋律をグループでつなげる時、どんな意見を出しましたか。どんなことを考えましたか。また、他のグループの音楽を聴いて感じたことを書きましょう。）

いろんな音を試してみただけと扱われている音じゃないと変だとわかりました。和音にある音を使うとせりりつに合うことがわかった。いきなり上がるのではなく徐々に音が上がったりがったりするのいいと思いました。友達と調節するのが難しかったです。

【グループのカード】
グループの1人が、パソコン係としてこのカードに入力する。完成したら、グループの友達にこのカードを送る。完成したソングメーカーのウェブカードは、このカードに貼り付ける。

旋律と和音の響きが合っていて、旋律の流れにまとまりのある音楽をつくろう。

グループの考えのカード（グループの1人が書く）

メンバー：

どんな音楽にしますか。
どんな感じの音楽にしますか。

そのために、どのように作りたいたですか。また、どのようなことに気をつけたいですか。

次の授業頑張ろうと思ってくれるような音楽。最初は楽しく最後は落ち着くような感じ。安心するような音楽にする。

和音に合うような音楽にする。最初は楽しく、最後に締めのような感じの音楽にしたい。違和感があるところは、何回も聞く。

担当：A B C

ソングメーカーのもと

完成したソングメーカー

グループで音楽をつくるとき、どのように考えて音楽をつなげましたか。協調した点、工夫した点、また、なぜそうしたのかを書きましょう。

Aの最初のところが違和感があったので、ドからミに減えました。どれも和音にあっている、それが本当に音楽である感じがしました。イメージに合っている音楽になりました。

チェックリスト

①ルールに合っていますか。(○)

②作りたいた音楽のイメージに合っていますか。(○)

③ポイントに沿って、つくれましたか。(○)

学習のふり返り

ふり返り

和音とせりりつの関係は最初はわからなかったが、授業をしていくにつれて関係が少しずつわかってきました。これからも家でせりりつづくりをしていきたいです。なぜ、和音と和音の間にはさまれているせりりつを使っても違和感を感じないのか不思議です。あと、違和感を感じるとき何回も聞くと違和感を感じなくなるのが不思議です。

ふり返り

和音の勉強はいい学びになりました。和音の相性が最初よくわからなかったけど、和音に入っている音やとなりの音、間の音を使うと違和感がないことがわかりました。和音に入っている音を使うと爽やかな綺麗な音、濁っていない音が作れました。いろんな音を使うと、飽きないでそのまま聞き続けられました。1の音とか4の音とかの音それ以外にも色んな音があったんですけど、その音によって体が勝手に動いちゃいます。個人的には自信作で、でもみんなすごく出来ていて、みんなそれぞれ個性があっていいなあと、改めて思いました。高い音や低い音を使っているのもチャレンジ精神があるなあと感じました。最後は高いドや低いドで終わる人達がいまして、低いドで終わると、落ち着く感じがして高いドで終わると、爽やかな感じで終わるような感じがしました。またこういう授業をやりたいです。

資料3 ソングメーカーの活用

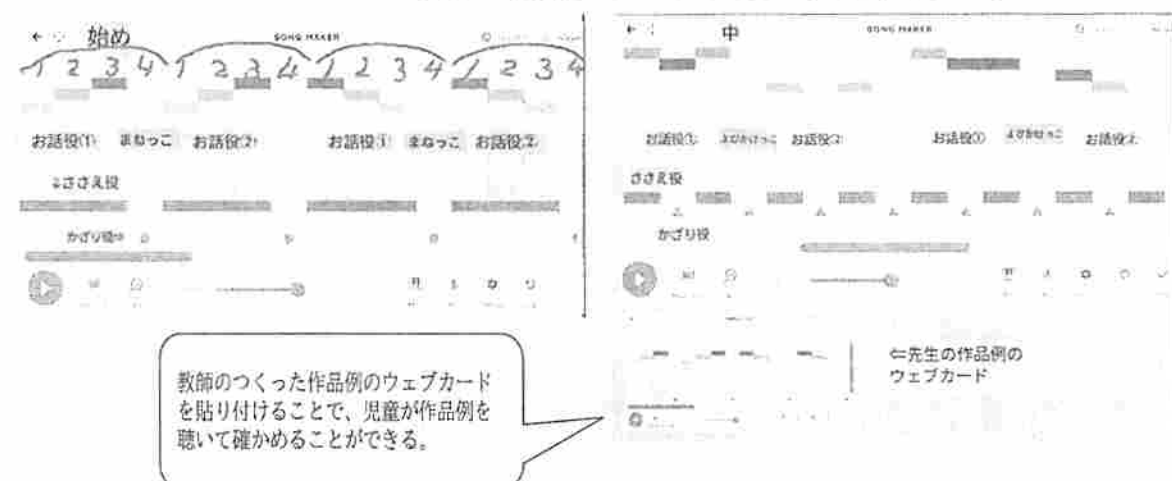
〈実践Ⅰ〉

3種類の音階をソングメーカーで表し、カードとして児童に送ったり、黒板に掲示したりした。つくった音楽に使われている音が、選んだ音階の音を使っているかを確かめるのに有効だった。



〈実践Ⅱ〉

ルールについて、ソングメーカーを使って説明したカードを用意し、児童に送った。



〈実践Ⅲ〉

和音がすでに入力されたソングメーカーのもとを配付した。児童は旋律のみを入力する。



使う音をソングメーカーの画面で示し、カードとして児童に配付したり、掲示したりした。



1 題材名 「音階をもとにして音楽をつくろう」

表現（音楽づくり）

【本題材で扱う学習指導要領の内容】

A表現（3）ア（ア）イ（ア）ウ（ア）

〔共通事項〕ア

- ・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素
音階、旋律

2 題材について

（1）題材の目標

- 様々な音階の響きの特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに、発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付ける。（知識及び技能）
- 旋律や音階などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや、音階による旋律の雰囲気の違いを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得る。（思考力、判断力、表現力等）
- 音階をもとにして旋律をつくることに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、日本の音階や旋律に親しむ。
(学びに向かう力、人間性等)

（2）題材設定の理由

本題材は、都節音階、民謡音階、琉球音階をもとにした音楽づくりを通して、我が国の音楽の旋律の雰囲気を感じ取り、設定した条件に基づいて、音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身につけることをねらいとする。

音楽づくりのもとにする3種類の音階は、五音音階であり、西洋の音階に比べ、児童が旋律づくりに取り組みやすい。順次進行になるような音の選び方やまとまりのある動き方を工夫することによって、音階の特徴を生かした旋律をつくる技能を身につけることができる。本題材を通して、いろいろな表現を試しながら、音楽をつくる楽しさを味わえるようにしたい。

（3）児童の実態

実態調査の結果、全員が音楽づくりの活動を「好き」または「どちらかというと好き」と感じていることがわかった。1学期に行ったパソコンを使った音楽づくりでは、どの児童も楽しそうに音楽をつくる姿が見られた。4人組になり、それぞれがつくった音型をつなげて4小節のせんりつをつくる活動を行った。順番を工夫して友達と音型をつなぎ、旋律をつくることができていた。

（4）指導観

思いや意図をもち、主体的に音楽づくりに取り組むことができるようにするために、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取る場面の工夫をする。本単元で扱う「谷茶前」は沖縄の音楽であるが、児童には親しみが少ない様子が実態として見られる。そこで、お昼の放送で沖縄の音楽を流したり、一つ前の単元の「音楽今昔」で「エイサー」を取り上げたりして、沖縄の音楽に触れられるようにしていく。第1時では、「谷茶前」を聴いたり歌ったりし、音楽の雰囲気や特徴に気付き、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取れるようにする。この時、児童の発言を板書にまとめ、気付いたことや聞き取ったことを全体で共有していく。また、この曲に使われている音階があることを知らせ、音階のもつ雰囲気を感じ取れるようにする。既習の「さくら さくら」と「ソーラン節」に使われている音階についても確認し、それぞれの音階の感じの違いについても、児童の発言からまとめていく。また、好きな音階の一つを選び、ミニグロッケンでリレー演奏することで、それぞれの音階の雰囲気を感じ取れるようにした。

い。第2時では、ミニグロッケンで演奏されたそれぞれの音階を聴き、どの音階も和楽器ではなくミニグロッケンで演奏されても和風な感じや沖縄の感じがすることに気付かせたい。そして、音階と旋律をどのように工夫すると、それぞれの音階の雰囲気が出るような音楽が作れるのかという学習課題をもてるようにしていきたい。(仮説1①)

効果的なICTの活用として、音の動き方や選び方が可視化されてわかりやすいことを生かし、ソングメーカーで旋律をつくるようにする。どんなイメージの音楽にするかや、〇〇っぽい旋律にするために、どのように旋律をつくったのかをロイロノートのカードに入力するようにする。(仮説2④)

思いや意図をもって音楽づくりをするための言葉かけの工夫としては、音の選び方や音の動き方に関して、どのように考えてつくったかを問いかける。また、特に音階の雰囲気を生かしている部分やお気に入りの部分はどこかを尋ねる。さらに、なぜこの音階を選んだのかを問いかけ、音階の気に入った部分を生かして音を選ぶよう助言する。このようにして、児童の思いや意図を聞き取っていききたい。ただ何となくつくったという児童には、旋律づくりのポイントを振り返るよう助言し、音階の雰囲気を生かせるようにしていく。(仮説1②)

音楽づくりのルールについては、第1時はつくる旋律の長さを2小節、第2時は4小節とした。第2時は個人でじっくりと音の選び方や動き方を考え、音階の雰囲気を出せるよう4小節とした。4小節が難しい児童は、2小節でもよいこととする。音階や旋律に注目させたいので、音色は全員統一することにした。速度については、100に統一する。また、リズムも四分音符のみにすることで、より音階と旋律に焦点を絞ってそれぞれの音階の雰囲気が表れるような音楽をつくれるようにしたいと考え、条件を設定した。第2時では、教師のつくった旋律について、音階や旋律の動きを生かして、音階の雰囲気が表れている旋律になっているか考える場面を設ける。そうすることで、音階や旋律の動きをどのように工夫したら良いか、見通しをもたせられるようにしたい。(仮説2③)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 様々な音階の響きの特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付いている。 技 発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けている。	思 旋律や音階などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや、音階による旋律の雰囲気の違いを感じとりながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ている。	態 音階をもとにして旋律をつくることに興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。

4 指導と評価の計画(3時間)(本時2/3時間)

時配	◎ねらい ○学習内容・学習活動 ☆[思考・判断・表現のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素]	○教師の発問や働きかけ ・目指す児童の姿	知・技	思	態
	◎音階をもとにして表現することに興味をもち、音階の雰囲気を生かして音楽をつくる。				

第一時	○三種類の音階について知る。 ・「谷茶前」を聴いたり歌ったりし、音楽の雰囲気や特徴に気づき、それらの生み出すよさや面白さなどを感じ取る。 ・「谷茶前」で使われている音階について知り、気付いたこと、感じ取ったことを発表する。 ・3つの音階のよさや面白さ、美しさなど感じ取ったことを発表する。 ○選んだ音階の音を使って、2小節の旋律をつくる。 ・一人一つの音階を選び、音階の雰囲気を生かして2小節の旋律をミニグロッケンでつくる。 ○つくった旋律をつなげて演奏する。 ・もとにした音階ごとに集まり、拍にのってミニグロッケンの演奏でリレーする。 ○学習のまとめをする。 ・ふり返りをロイロノートのカードに書く。 ☆〔音階、旋律〕	○児童の発言を板書にまとめる。 ・沖縄の音楽の感じがする。 ・沖縄の楽器を使っている。 ○琉球音階を知らせ、ピアノで演奏する。 ○「和風」「お祭り」「沖縄」っぽい感じなどの言葉で、それぞれの音階の特徴をまとめる。【仮説1①】 ○ミニグロッケンの鍵盤を音階が使われている音だけで用意し、「ソーラン節の音階コーナー」のように3箇所用意する。 ○友達の演奏を聴いて、感じたことを発表するよう促す。 ○「和風」「お祭り」「沖縄」っぽい感じがしたか、問いかけ、それぞれの音階を使うと、○○っぽい感じになることを確認する。 ・様々な音階の響きの特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付く。 (ロイロノートの記述・発言)	知へ聴取・記述V			
第二時	※5 本時の指導 参照					
第三時	○前時の学習をふり返る。 ・つくった旋律を見直し、修正する。 ・ロイロノートの回答共有機能を使い、友達のつくった旋律を個人で鑑賞する。 ○発表会をする。 ・4人グループで、発表会をし、どのように旋律をつくったのか思いや意図を伝え合う。 ・学級全体でも希望者による発表会をする。音階の特徴を生かしてつくられた旋律をつくった友達を紹介する。 ○活動をふり返り、まとめをする。	○友達のつくった旋律を聴いたり、ロイロノートに書かれた友達の考えを読んだりして、よいなと思うものを見つけるよう促す。 ・○○っぽい旋律をつくるために、音の選び方や動き方を工夫して、パソコンで旋律をつくることのできる。 (ソングメーカー) ・音楽づくりの活動を振り返り学んだことを書いたり、次につなげたいことについて、自分の考えを書いたりする。 (ロイロノートの記述・観察)	技へ聴取・記述V	態へ観察・記述V		

5 本時の指導(2/3)

(1) 本時の目標

音階による旋律の雰囲気の違いを感じ取りながら、即興的に表現することを通して、音楽づくりについて発想を得る。

(2) 本時の展開

時配	○学習内容・学習活動 ☆〔思考・判断・表現のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素〕 (音符、休符、記号や用語等)	○教師の働きかけ ・目指す(予想される)児童の姿 (記述・工夫・発言例)	評価の場面 〈評価方法〉		
			知・技	思	態
2	○前時のふり返しをする。 ・前時にわかったことを、発表する。	○児童の発言で前時の学習内容を振り返る。 ・音階によって雰囲気の違う旋律ができた。音階の音を使うと、○○っぽい感じの旋律ができる。			
3	・ミニグロッケンで演奏された3種類の音階が、どの音階かを当てるクイズに答える。	○ミニグロッケンで演奏されても、和風な感じや沖縄の感じがすることを確認する。			
2	・前時の友達のふり返しを、確認する。	○前時のふり返しの中から本時の課題につながりそうな意見をいくつか提示し児童が明らかにしたくなるような学習課題を設定する。			
1	○本時のめあてを確認する。				
	○○っぽいせんりつをつくるには、どのようなふうをするとよいだろうか。				
7	○音楽づくりの見通しをもつ。 ・個人でソングメーカーを使って旋律をつくることを知る。 ・音楽づくりのルールについて確認する。 ・教師が示す旋律例を聴き、気付いたこと感じ取ったことを発表する。 【教師が示す旋律例①】 ミ ファ ミ ミ ファ ファ ファ ファ ファ ミ ミ ファ ミ ファ 【教師が示す旋律例②】 ミ ド ファ ド ラ ミ ミ ラ ミ ミ ファ ド ミ ミ	○本時の音楽づくりのルールについて説明をする。 【仮説2手立て③】 ・音が二つしかなくて、つまらない。他の音も使った方がいい。 ・和風な感じがしない。 ・音の選び方を工夫するとよい。 ・音がとぶことが多くて、旋律にまとまりがなく、和風な感じがしない。 ・隣の音をもう少し使って、旋律の動き方が激しくない方がよい。 【仮説1手立て①】			
13	○個人で旋律をつくる。 ・ソングメーカーを使って、○○っぽい感じの4小節の旋律をつくる。 ・旋律ができたら、どのようなことを考えて旋律をつくったのかを、ロイロノートに書く。	○音の選び方や動き方(上行、下行、山型、谷型など)を工夫するよう、助言をする。 ○どうして、このような音の動きになっているのか、部分的にも尋ねる。 ○音階の特徴を活かしている部分やお気に入りの部分を尋ねる。 【仮説1手立て④】			

7 5 5	○2人組で、それぞれがつくった旋律を発表し合い、感想を伝える。 ・○○っぽいところがあるか注目して聴く。 ・○○っぽいところがあったら、友達に伝える。 ・あまり○○っぽいところがなかったら、こうしたらどうかと意見を伝える。 ・自分は、どんなことを考えてつくったのか(意図)を友達に話す。 ○つくった旋律を発表する。 ・ソングメーカーでつくった旋律を発表する。 ・どのようなことを考えて旋律をつくったのか、発表する。 ○学習をふり返り、まとめる。 ・自分の言葉で学習のまとめを書く。	・○○っぽい旋律をつくるために、音の選び方や動き方について発想を得ている。 (ロイロノートの記述・発言) 【仮説1 手立て②】 ○早くつくり終わった児童には、回答共有された友達のつくった旋律を聴くよう促す。 ・隣の音をよく使っていて、和風な感じが出ていますね。 ・いろんな音を使っているのも、すてきだと思います。 ・だんだん上がって下がる音の動きが、2回繰り返されていて、まとまりがありますね。 ○○○○っぽい感じの旋律にするために、どのような工夫をしたのか問いかける。 ○○○○っぽい感じの旋律にするためのポイントを板書にまとめる。 ○ふり返りの例を示す。 「～～～のようになると、和風っぽいせんりつになる。」 「今日は、～～～を学んだ。」		思入聴取・記述	
----------------------------	---	---	--	----------------	--

(3) 板書計画

○○っぽいせんりつをつくるには、どのようにふうをするとよいだろうか。

「さくら さくら」の音階 ミファラシレミ 和風っぽい	「ソーラン節」の音階 ミソラシドミ お祭りっぽい	「谷茶目」の音階 ドミファシド 沖縄っぽい
----------------------------------	--------------------------------	-----------------------------

【先生のつくったせんりつ①】

- ・音が二つしかなくて、つまらない。他の音も使った方がいい。
- ・音の選び方を工夫するとよい。

【先生のつくったせんりつ②】

- ・音がとぶことが多くて、旋律にまとまりがなく、和風な感じがしない。
- ・隣の音をもう少し使って、旋律の動き方が激しくない方がよい。

音の選び方

③選んだ音階の音を使う。

④○○っぽい旋律をつくるには、どうしたらよいか考えながらつくる。

⑤ = 1 0 0

⑥音色 ストリングス

⑦終わりの音 ○の音

音の動き方

上がる 下がる 山型 谷型 同じ高さ

音の動き

まとめ

音があまりとばないような音の動き方、使う音の種類が少なすぎないような音の選び方をするとよい。

- 1 題材名 「和音に合わせて旋律をつくろう」
表現（音楽づくり）

【本題材で扱う学習指導要領の内容】

A表現（3）ア（イ）イ（イ）ウ（イ）

〔共通事項〕ア

・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素
音楽の縦と横との関係

※本題材で扱う「音楽の縦と横との関係」とは、「旋律」と「和音の響き」との関係を目指す。音楽の「横」として、反復や変化などの音楽の仕組みを用いた旋律のつなげ方を扱う。

2 題材について

（1）題材の目標

- 和音と旋律との関わり、旋律のつなげ方の特徴（音楽の縦と横との関係）について、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる。（知識及び技能）
- 旋律や和音の響きなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。（思考力、判断力、表現力等）
- 和音と旋律との関わりや、和音に合わせて旋律をつくること、つまり、音楽の縦と横の関係に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組み、ハ長調の主要三和音に親しむ。（学びに向かう力、人間性等）

（2）題材設定の理由

本題材は、I IV V I の和音の響きや和音と旋律との関わり、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、また、旋律の流れの構成についても考え、全体のまとまりを意識した音楽をつくることをねらいとしている。

児童はこれまでに、「茶色の小びん」や「こきょうの人々」の学習において、旋律と低音や、旋律と和音との関わり、つまり、音楽の縦と横との関係、について感じ取ったり、理解したりしてきた。「こきょうの人々」では、音楽の縦と横との関係の音楽における「横」（時間的な流れ）として、旋律の構造（一部の旋律が、くり返しでてくること）についても演奏を通して理解をし、よさを感じ取ってきた。

本題材では、これまで学習してきた和音と旋律の縦と横との関係について、それらの生み出すよさや面白さに気づき、思いや意図をもって音楽を表現し、主体的に音楽づくりに取り組む態度を育てていきたい。

（3）児童の実態（男子14名 女子6名 合計20名）

本学級の児童は、昨年度4年生の時にパソコンを使っての音楽づくりに3回取り組んできた。3学期に行った音楽づくりの活動後のアンケートでは、「どのような音楽をつくるか考えながらつくったか」という質問に対して、ほとんどの児童が考えながらつくったと回答していることから、思いや意図をもって音楽づくりに取り組んできたことがわかった。

昨年度は、音の動き方を工夫することで、まとまりのある旋律ができること、音があまりとばないようにすることで、音階の特徴を生かした旋律をつくれること、パートの役割を意識したり、音楽を縦に見てどのように重ねるとよいかを考えたりすることでまとまりのある音楽をつくれることを学習してきた。3学期に行った「役割をもとにして音楽をつくろう」では4人組で音楽をつくったが、それぞれがつくった旋律やリズムをただ重ねただけで、音楽の縦と横の関係をあまり意識していないグループが見られた。本題材では、それぞれがつくった旋律をただつなげるだけでなく、和音との関わりや旋律のつながり方をどのようにす

るとよいか、思いや意図をもって音楽をつくることができるような手立てを考えていきたい。

(4) 指導観

児童が思いや意図をもち、主体的に音楽づくりに取り組むために、業間休み終了5分前に放送されるメロディーをつくるという課題を設定する。つくる音楽は、旋律と和音を重ねた8小節で、個人でつくった旋律を友達とつなげ、3人組のグループで完成させる。本題材で扱う「音楽の縦と横との関係」のうち、「旋律と和音の響きの関係」の働きが生み出す面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えるために、第1時ではミニグロッケンをつかった即興的な音楽づくりを行う。旋律に和音の構成音を使うと、和音の響きによく合うことを感じ取れるようにしたい。(仮説1①)

第1時と第2時では、教師のつくった悪い見本の音楽の例を聴くことで、「旋律と和音の響きが合うためには、どのようにしたらよいか」、「まとまりのある旋律にするには、どのようにしたらよいか」という課題を見いだせるようにする。課題を解決するために、既習の曲を聴いたり、旋律と和音の響きの関係や旋律の構成がどのようになっているのかを調べたりする。この活動を通して、本題材の音楽づくりのポイントを発見していく。(仮説1①) このポイントを生かし、また、放送のメロディーをつくるという課題を意識し、自分のつくりたい音楽への思いや意図をパソコンで入力する。(仮説2④) それをもとに、同じような思いをもった児童の3人組を教師が組み、第3時からグループで音楽づくりに取り組む。音楽づくりの条件は、「ルール」として8つに絞り、提示していく。(仮説2③)

第3時では、まずグループごとにどのような音楽をつくりたいのかのすり合わせを行う。その上で、個人で2小節の旋律をつくる。旋律の音が和音の構成音と同じになっていることが可視化しやすいように、パソコン(ソングメーカー)を使って音楽づくりをする。(仮説2④) 次に、個人でつくった音楽を友達とつなげる。その際、ルールや第1・2時で確認したポイントに合っているのか、自分たちの思いや意図と合っているのかを話し合いながら、音楽をつくるようにする。ただ個人がつくった旋律をつなげただけになってしまうグループには、ルールやポイント、思いや意図に合っているのか一つずつ確かめるよう助言する。また、完成したグループには、どのように考えて音楽をつくったのかを聞き出し、児童が音楽づくりの過程を再確認できるようにしていきたい。(仮説1②) どのように考えて音楽をつくったのかや工夫したポイントなどは、パソコンに入力し、発表会で説明する際に使うようにする。(仮説2④)

第4時では、2つのグループでお互いの音楽を聴き合い、気付いたことを伝え合う活動をし、自分たちのつくった音楽の確認や微調整を行う。最後に発表会を行い、学習のふり振り返りとまとめをしていきたい。(仮説2④)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 音楽の縦と横との関係について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解している。 技 思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係を用いて、音楽をつくる技能を身に付けている。	思① 音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。 思② 音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	態 和音と旋律との関わりを生かして音楽をつくることに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。

4 指導と評価の計画（4時間）（本時3／4時間）

時配	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動 ☆〔思考・判断・表現のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素〕	○教師の発問や働きかけ ・目指す児童の姿	知・技	思	態
	◎旋律と和音との関わり、まとまりのある旋律の流れについて、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解する。				
第1時	○本題材の課題を知る。 5年生で、業間終了5分前のメロディーをつくって放送で流すことになりました。旋律と和音を重ね、8小節のメロディーをつくりまします。全校のみんなが、遊びをやめて、落ち着いて次の時間の準備に取り組めるような音楽をつくりまします。 ○本時のめあてを確認する。 ・先生がつくった音楽の例①（旋律と和音の響きが合っていないもの）を聴き、目標を設定する。 せんりつと和音の響きが合うには、どのようにしたらよいのだろうか。	○既習曲の旋律と和音が入力されたソングメーカーの楽譜を提示し、旋律と和音の構成音の関係について調べられるようにする。また、ソングメーカーで実際に演奏を聴き、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えられるようにする。 ○児童の気付きから、旋律と和音の響きが合う時のポイントをまとめる。 ○教師がピアノで和音を演奏し、それに合わせて和音の構成音のみの鍵盤が用意されたミニグロッケンで即興的に旋律をつくれるようにする。 【仮説2④】 ・旋律に和音の音が使われていると響きが合っていて、きれいな感じがする。 （記述・発言）【仮説1①】			

第二時	○本時のめあてを確認する。 ・教師のつくった旋律の例②（8小節にまとまりがない）を聴き、本時の目標を設定する。	・旋律と和音の響きは、合っているけど、旋律がどれも違っていてまとまりがない。 【仮説1①】	 知へ発言・記述V		
まとまりのあるせんりつにするには、どのようにしたらよいのだろうか。					
○まとまりのある旋律のつなげ方について気づく。 ・「茶色の小びん」や「こきょうの人々」を聴いたり、旋律の構成やつなげ方を調べたりする。 ・気付いたことについて、確認する。 ☆【音楽の縦と横の関係】 せんりつの一部をくり返すとよい。 つなく感じ 終わる感じ を意識する。 ○音楽づくりのルールを知る。 ○どのような音楽をつくりたいのか思いをもつ。 ・どのような音楽をどのようにつくりたいのか、書く。 ○ルールに従って、個人で旋律を試しにつくる。 ○次時のめあてを確認する。	○「こきょうの人々」の旋律を演奏した時に、同じ旋律がくり返されている部分があったことを想起できるよう、合奏で使用した楽譜を提示する。 ・旋律が一部くり返されていると、音楽にまとまりがあつてよい。（記述・発言） 【仮説1①】 ○なかなか思いつかない児童には、いくつか例を示して参考にするよう助言する。 ○ルールをよく理解できていない児童には、個別に説明をする。				
◎旋律と和音との関わり、まとまりのある旋律の流れについて考えながら、全体のまとまりを意識した旋律をつくる。					
第三時	※5 本時の指導 参照				
第四時	○本時のめあてを確認する。 せんりつと和音が合っていて、せんりつの流れにまとまりのある音楽をつくろう。				
○グループごとに、音楽づくりの続きをする。 ・自分たちのつくりたい音楽のイメージに合っているか、2つのポイントができているか確認する。 ☆【音楽の縦と横の関係】 ○グループ同士でつくった音楽を聴き合ったり、思いや意図を伝え合ったりする。 ・2つのグループで集まり、互いにつくった音楽の発表をする。	○前時の中間発表や回答共有された他のグループの音楽のよさや面白さから、自分たちの表現に生かせそうなことがあったら生かしてみよう助言する。 ○2つのポイントができているかに注目して聴いたり、表現のよさや面白さを探しながら聴いたりするよう助言する。	 技へ聴取	 態へ発言・		

○発表会を行う。 ・つくった音楽を流し、どのように考えてつくったのかを発表する。 ○学習をふり返りまとめる。 ・音楽づくりを通して学んだことをパソコンに入力する。	・旋律と和音の響きが合っている旋律をつくっている。 ・旋律の流れにまとまりのある音楽をつくっている。 ・音楽づくりを通して学んだことを記述している。疑問点や新たに学びたいことなどを記述している。	・記述 V	観察・記述 V
--	---	----------	------------

5 本時の指導 (3/4)

(1) 本時の目標

旋律と和音との関わり、まとまりのある旋律の流れについて考えながら、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

(2) 本時の展開

時配	○学習内容 ・学習活動 ☆【思考・判断・表現のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素】 (音符、休符、記号や用語等)	○教師の働きかけ ・目指す(予想される)児童の姿 (記述・工夫・発言例)	評価の場面 (評価方法)		
			知・技	思	態
7	○本時のめあてを確認する。	○前時までにまとめたポイントを、板書を活用して確認する。			
	せんりつと和音の響きが合っていて、せんりつの流れにまとまりのある音楽をつくろう。				
3	○どのような音楽にするかグループで話し合い、見通しをもつ。 ・前時に個人で書いた「どのような音楽にしたいか」のカードを見せ合い、どのような音楽にするか、グループとしての思いをまとめ、パソコンに入力する。 ・だれがどの小節を担当するか、決める。	○なかなか意見がまとまらない場合には、3人の思いを少しずつ取り入れ、まとめてみるよう提案する。 ・業間休みの楽しい気分のまま教室へ戻れるように、最後は音がだんだん上がるようにしよう。 ・全校のみんなが聴くメロディーなので、和音の響きと旋律が合っているすてきな音楽にしたい。 ・全員が、和音の音の隣の音を1回以上使って、かっこよくしたい。 【仮説2④】			
10	○個人で、旋律をつくる。 ・ソングメーカーを使い、自分が担当する部分の旋律をつくる。 ・どのように考えて旋律をつくったか、パソコンに入力する。	○和音の構成音やその隣の音を使って旋律をつくれているか確認し、できていない場合は、児童と一緒に確かめるようにする。 【仮説2④】 ○旋律をつくれた児童には、どのように考えてつくったのかを問いかけ、思いや意図を聞き出し、その内容をパソコンに入力するよう声をかける。 【仮説1②】			

15	○グループで、旋律をつなげる。 ・それぞれがつくった旋律を、グループの一人がソングメーカーに入力し、旋律をつなげる。 ・どのように考えて旋律をつくったのか、友達に伝える。 ・どのようにして旋律をつなげたのか、つなげる時にどのような微調整をしたのかをパソコンに入力する。 ☆【音楽の縦と横の関係】	○ルール、ポイント、自分たちの思いや意図に合っているか確認するよう、声をかける。 ○つなげた旋律がうまくつながっていない場合は、少し音を変えてもよいことを伝える。 ○つくりたい音楽にするために、どのように旋律をつなげたのか問いかけ、思いや意図を聞き出し、その内容をパソコンに入力するよう声をかける。 【仮説1②④】	思 ② へ 聴 取 ・ 記 述 V
5	○中間発表をする。 ・つくった音楽を流し、どのように考えてつくったのかを発表する。	○表現のよさや面白さを具体的に伝え、次時に友達の表現を自分の表現に生かすよう話す。	
5	○学習をふり返り、まとめる。	・旋律と和音の響きが合っているときれいなので、なるべく和音の音を使って旋律をつくった。 ・自分が担当した1・2、5・6小節目は、次の小節の5度の和音にうまくつながるように、ラの音で終わるようにした。	

(3) 板書計画

せんりつと和音の響きが合っていて、せんりつの流れにまとまりのある音楽をつくろう。

ポイント1
せんりつと和音の響きが合っている

和音の音を使う
ために、和音の隣の音を使う

ポイント2
せんりつの流れにまとまりがある

せんりつの一部をくり返すとよい。
つなぐ感じ
終わる感じ を意識する。

どんな音楽にする？
どんな感じの音楽にする？

学習の流れ

- ①どんな音楽にするか、グループで話し合う。
- ②ABCの担当を決める。(カードにも書く)
- ③個人でつくる。→どのようにつくったのかも書く
(個人のカード)
- ④グループでつなげる。
- ⑤微調整とチェック(チェックリストに○)
- ⑥どのように考えてつなげたのかを、グループのカードに書く。
- ⑦グループの考えカードを、メンバーに送る。
代表は、グループの考えカードを提出。
- ⑧個人のカードに、ふり返りを書く。

〈ルール〉

- ①8小節(4分の4拍子)
- ②リズム  × 4
- ③和音 I V V I × 2
- ④音色 ピアノ
- ⑤速度 ♩ = 100
- ⑥最後の音は、ド(高いドでもよい)
- ⑦使う音 ドレミファソラシド
- ⑧和音にふくまれない音、1つだけ使ってもよい

まとめ

せんりつと和音の音が合っているかを確認することが大切。

ただせんりつをつなげるだけでなく、音の動き方も考えてうまくつながるようにするとよい。

音の動き方



